

第5部 あしたのわが区

第1章 新基本計画

1 名古屋市基本構想・基本計画・新基本計画

名古屋市は、昭和52年12月、新しい世紀を展望した「名古屋市基本構想」を、市議会の議決を経て定め、市政運営の指導理念としました。

そして、この基本構想の着実な実現を図るため、平成2年度を目標とする「名古屋市基本計画」を昭和55年1月に策定し、市政運営の指針としてきました。その後、高齢化や国際化、技術化や高度情報化が進み、市政を取り巻く状況が大きく変わってきたために、基本構想に基づく第2次の長期総合計画として、平成12年度（2000年）を目標とする「名古屋市新基本計画」を昭和63年に策定しました。

この新基本計画は、生活・産業・文化の全般にわたって調和のとれた「住みたくなるまち名古屋」の建設をめざしています。総論中の「土地利用の基本方向」では、名東区内の藤が丘・上社地域を「広域交通幹線との結節点であり、市内外の大学・研究機関の集積地に近接している特性を生かした個性的な商業・業務地としての土地利用を誘導する外縁拠点域」として位置づけています。

2 第1次推進計画、第2次推進計画

新基本計画をさらに積極的に推進していくため、第1次の推進計画として「名古屋市推進計画」（計画期間：昭和63年度～平成3年度）を平成元年7月に策定しました。この推進計画には、世界デザイン博覧会などの市制100周年記念事業を始めとして総計で781の施策・事業が掲げられ、計画期間中におおむね達成されました。

第1次推進計画の達成を受け、平成4年7月に公表された「第2次名古屋市推進計画」は新基本計画を引き続き着実に推進する計画で、計画期間は平成4年度から6年度の3か年です。この計画は「総論」、「部門別計画」、「地域別計画」の3部からなっています。

総論では、従来からの懸案である「定住問題」や、その後の社会経済環境の変化によって生じてきた「ごみ問題」、「駐車問題」などの当面する重要課題、そして21世紀を迎えるにあたっての「都市基盤づくり」といった点にも的確に対応するよう配慮がされています。

また、①人と地球にやさしいまちづくり②個性と魅力のまちづくり③安心して暮らせるまちづくり④21世紀への基盤づくり、の4つの視点を重視しながら3年間で取り組むべき施策・事業がまとめられています。

◇ 名東区の将来像

第2次推進計画には、21世紀を展望した名東区の望ましい将来像として「なだらかな起伏のある地形や猪高緑地をはじめとするまとまりのある緑地など良好な環境を生かしながら、文化の香り高い豊かでうるおいのあるまちづくりをすすめるとともに、新しい市街地にふさわしい優れた都市景観の形成をはかり、ふるさととして誇りを持てるふれあいと緑のまちをめざす。」とされています。第2次推進計画期間中に名東区内で進められた事業の主なものは次の通りです。

市民の福祉と健康

高齢者デイサービス施設「名東パラダイス」の開設

猪高保育園の整備

都市の安全と環境

上社西部第一公園に耐震性防火水槽の設置

上社ジャンクションランドマーク整備計画の策定

市民の教育と文化

名東方面スポーツセンターの建設着手

名東文化小劇場の建設着手

コミュニティセンターの建設（西山、猪子石、藤が丘、上社）

市街地の整備

一般国道302号線東部区間（国道363号線・国道153号線間）の供用開始

東名阪自動車道「勝川・本郷」間の開通

東山岩藤線の整備

都市高速道路（1号線）の整備

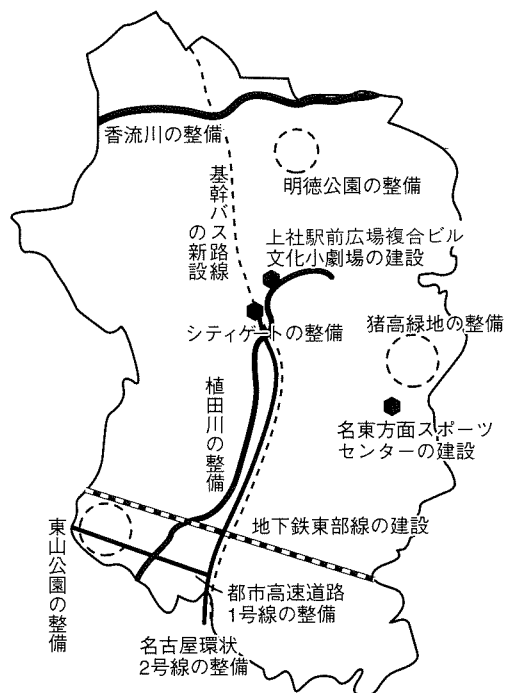
上社駅前広場複合ビルの建設着手

市民の経済

藤が丘地区商業地整備モデル事業の実施

3 第3次推進計画

第2次推進計画の後を受けて、平成7年には第3次名古屋市推進計画（計画年度：平成7年度～9年度）が発表される予定になっています。第2次推進計画の4つの視点を引き続き重視しながら、さらに昨今の経済社会情勢の急激な変化に的確かつ柔軟に対応して新基本計画の実効性を確保することをめざしています。



将来の整備構想

第2章 20周年記念事業

名東区は昭和50年に千種区から分区独立して、平成7年2月1日でちょうど20年を迎えます。その記念事業を企画・実施するために平成5年6月に区民の代表による「名東区区制20周年記念事業実行委員会」（会長 柴田正司）が設立されました。実行委員会では、事業のテーマと概要・予算を定めるとともに、各部会・小委員会に分かれて事業の内容を検討し、記念事業として次のとおり行うことになりました。

テーマ 「文化薫る 思いやりのまち 名東区」

主な事業

▶ 記念式典

平成7年2月19日（日） 名古屋サンプラザ

▶ 祝賀前日祭

平成7年2月18日（土） 名古屋サンプラザ

▶ 記念誌の刊行

▶ 名古屋フィルハーモニー交響楽団演奏会

平成7年5月20日（日） 愛知厚生年金会館

▶ ウォークラリー

平成7年4月29日（祝）

▶ 記念植樹

区の木「ケヤキ」を区役所はじめ区内30か所に植樹

▶ 文化協会の設立

平成7年中

第3章 「文化薫る思いやりのまち」をめざして

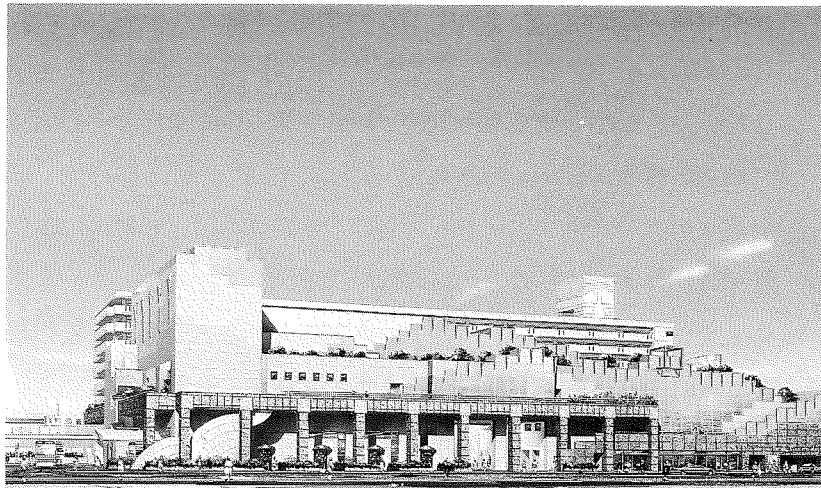
1 スポーツセンター

名東方面スポーツセンターは、平成5年度に実施設計が行われ、いよいよ猪高緑地内に着工しました。施設内容は、第1競技場、第2競技場、トレーニング室、軽運動室、温水プール、会議室等で延床面積は約1万4千3百㎡で、平成9年夏に開館の予定です。名東区はレクバレー、バドミントン、テニス、レク・インディアカ、グランドゴルフなど多彩なスポーツが盛んに行われている名古屋市内でも屈指の区でありながら区内に総合体育施設がなく、これまで大きな大会を開催する場合には天白区や守山区へ会場を求めていました。猪高緑地周辺には、名東プール、身体障害者スポーツセンター、アーチェリー場、社会教育センター等の施設も集中しており、猪高緑地の自然を生かしたスポーツゾーンの形成は、スポーツ団体をはじめ多くの区民から強く期待されています。

2 文化小劇場

名古屋市で5番目の文化小劇場として地下鉄上社駅前に建設着手した公共複合ビルの中に開設される予定です。平成5年度には実施設計が進められました。平成10年度頃には開館が期待されています。

客席数は約350席。舞台と客席の一体感がえられる小ホールとなっており、コンサートや、コーラス、舞踊、演劇等の発表会、さらには映画会や講演会などの様々な文化活動のほか、音響・照明設備も整備され本格的な舞台公演にも活用できます。同ビル3階には、スポーツルームも併設され、社交ダンス、卓球、3B体操、武道など多目的な利用も可能です。



上社駅前広場複合ビル完成予想図

3 コミュニティづくり

都市化の急速な進展につれ、名東区でも地域社会の連帯感は稀薄になり、隣近所の助け合いの気持ちが失われがちです。けれども町の美化を始め、青少年の健全育成、老人福祉、交通安全、防犯・防火などどれを取っても人と人との話し合いや、前向きに取り組む意識なしには解決が図れません。このような状況の中で、豊かな人間生活をおくるためには、区民が自分の住む地域に愛着を感じられるような、温かな交流に満ちたコミュニティづくりが大切になっています。そこで、地域の学習や情報交換、コミュニケーションのために気軽に集まったり、地域福祉、健康増進、防災活動など生活を安定、向上させるための活動拠点としてコミュニティセンターを建設したり、コミュニティペーパー発行のための調査や研修を行うなど、行政が様々な方法で積極的にサポートしながら新しいコミュニティ（地域社会）づくりが進められています。



コミュニティセンター文化祭

名東区では、昭和54年4月に香流学区に県の名東ふれあい広場が建設され、昭和59年2月に豊が丘コミュニティセンター、平成5年4月に西山コミュニティセンター、平成6年5月には猪子石コミュニティセンターが開館されました。平成6年度は藤が丘、上社の2館が建設準備に入っており、地域のコミュニティ活動の進展が期待されています。

4 名東区文化協会

一般に文化というと格調高い芸術文化をイメージするものです。名東区では、すでに「名東区芸術文化フォーラム」がプロを中心に平成4年12月発足し、種々の芸術文化活動を行っています。

さらに、情報化、高齢化の進展や、余暇時間の増大する地域社会の中で、いわゆる生活文化をテーマに取り上げ、生活に根ざした、あるいは生活の中で楽しんでいるアマチュアの活動に焦点を合わせた「名東区文化協会」の設立が平成7年中に予定されています。文化協会には、名東区芸術文化フォーラムを始め区内の文化団体と協力しつつ、区内文化活動の振興を図り、地域の文化水準の向上に寄与し、会員相互の親睦を図る等の活動が期待されています。

5 名東区芸術文化フォーラム

名東区芸術文化フォーラム（会長：牧定忠）は、名東区に在住、または活動の拠点を置く芸術家・芸術文化団体が共同して、生活環境を芸術的、文化的にしていくための諸施策を提言したり、行っていくことで、名東区を住み良い潤いのある町にするとともに、愛知の芸術・文化の発展を図るために平成4年12月に設立されました。平成6年4月現在、会員は個人53人、団体11団体です。

平成5年8月には廻間公園で開催された区民まつりに参加したり、平成6年5月には「芸術ラリー」を開催して、区内でコーラス、声楽、日本舞踊、バレエ、現代舞踊、創作人形など多彩な文化芸術を披露しました。



「芸術ラリー」